

# まちの話題

## 馬見原小田植え体験



5月19日、馬見原小学校の5・6年生18名が田植えを体験しました。毎年恒例となっている馬見原東部老人会（古川俊次会長）との交流事業で、今年も学校近くの田んぼ5aに田植え綱を張りながら植え付けました。田の所有者である甲斐寛さんによって代かきされた水田の感触には、はじめは喚声をあげていた児童たちでしたが、次第に集中し、きれいに苗を植え付け終わりました。生まれて初めて田植えをしたという児童もいて「難しかったけど楽しかった。」と泥だらけの手と足を見せながら話してくれました。

集中して植え付けました



## 新茶まつり



新茶の時期にあわせて開催される「新茶まつり」。今年は5月29日に開催されましたが、あいにくの雨のため、会場を町営中央体育館に移して行われました。矢部高・蘇陽高校生徒による野点、きき茶会や釜炒り茶実演など、毎年大人気の催しとともに、今年は茶商品コンテストで上位入賞したスイーツも限定販売され、こちらも好評だったようです。この新茶まつりの売り上げの一部は東日本大震災の被災地へ義援金として送られることになっています。

茶葉の手もみ体験も人気でした。

## 畑は宝



園児に収穫の喜びを体験してもらうため、畑での栽培活動を30年継続している白糸保育園。今年は生ゴミを使った堆肥づくりに挑戦しました。指導したのは、町内バイオ燃料協議会の事務局など環境保全に関する活動を行う兼瀬明彦さん。「畑は宝」と題して園児に野菜が育つ仕組みをわかりやすく説明したあと、園児が家庭から持参した生ゴミを米ぬかなどと一緒に畑の土に混ぜました。微生物が生ゴミを餌にして栄養豊かな土になった頃に、ニンジンとダイコンが植えられる予定だそうです。

昨日の残り物も、次の食べ物のために役立えます。

## 春の交通安全運動

春の全国交通安全運動が5月11日～20日の10日間開催され、町内各所で交通安全を呼びかける催しが行われました。今年はず子どもと高齢者の交通事故防止を呼びかけました。この運動の一環として、今回矢部高・蘇陽高のバイク通学生がタスキを掛けてPRするのは初めての試みや、毎年恒例の肥後ハーレー会による交通安全パレードなどが行われました。

昭和23年に始まったこの運動、県内では年々事故件数が減少傾向にありますが、山都警察署管内では件数が増加しており、高齢者の事故も増えているそうです。



## 矢部高生とどんぐり学校

潤徳小学校の学童保育「どんぐり学校」に、新しいおもちゃが届きました。それはヒノキで作られたパズル「ジェンガ」。プレゼントしたのは、矢部高校林業科3年生の下竹未来くんなど6名です。これは、同科で行われている町内木材利用の実験の一環として作成した「ジェンガ」で、作成メンバーの一人が、夏休み期間中「どんぐり学校」でボランティア指導員を行っていたことがプレゼントのきっかけとのこと。さっそくなかよくジェンガで遊ぶ子どもたちをみて、下竹くんは「喜んでもらえてうれしい」と話してくれました。

## サクランボみつけた

熊本市の白川和隆さんが井無田地区で開くサクランボ農園に、御岳保育園の園児22名を招待しました。農園に入った園児は鈴なりのサクランボを見て「わあ」と歓声をあげ、競うように収穫しはじめました。収穫の合間に味見をするのも忘れていない園児たちは「甘くておいしい」と大満足の笑顔でした。白川さんは、約10年前からこの地でサクランボ栽培に取り組みはじめ、現在5000㎡に香夏錦など8種類230本を管理しています。「苦労した昨年に比べて今年は良く実をつけてくれました。」今年からオーナー制度にも取り組みはじめた白川さん。園児の収穫を終わりに見守っていました。



蘇陽高体育祭を通過したハーレー会



バイクで交通安全PR(矢部高校)



上手に採れるかな